


令和8年度 学校経営環境分析書

令和8年 4月 1日
(三原市立第四中) 学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	 (支援的要因)	 (強み)	内部環境	
	<p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校へ何らかの関心を持っていただいている ・小中の連携がとりやすい ・コミュニティ・スクールの導入により、地域から応援やサポートを得やすくなる <p>【市教委】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校を起点とした親切で丁寧な支援が厚い ・情報機器設備等の教育環境整備が充実している <p>【県教委】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師等の人的配置がある <p>【国】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領 	<p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模を生かして、丁寧な指導ができる ・教職員間での日常的な情報交換が活発である <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学校生活を送っている ・思いやりがあり、素直な生徒が多い <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動に関心があり、協力的な保護者が多い 		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 支援的要因と強みを生かした活動・取組は </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員のスキルを活かした主体的な教育実践 ・「問い」と「振り返り(R80)」を意識した授業改善 ・個のみとりを活かした個別指導 ・ICT 機器を効果的に活用した教育活動 ・生徒会を中心とした異学年交流活動、地域貢献活動の充実 ・小中連携の推進
 (阻害的要因)	 (弱み)	<p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が進行している ・人間関係が固定化している ・保護者の意識や価値観の多様化 ・地域で子ども達を育てるといった感覚が一部に留まり、希薄になってきている <p>【市教委・県教委・国】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査物やアクトが多く、集中することもあり、業務を圧迫することがある ・施設設備の老朽化が進んでいる ・教育予算や制度についての現状把握や改善ができていない 	<p>【学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数の減少により、行事等の運営が難しい ・業務の偏りと次期主任層の育成 ・綿密、迅速な報連相による情報共有にムラがある <p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数のため、生徒同士による学びの機会が少ない ・自分で考え、判断し、行動できる生徒が少ない(経験不足) ・多くのことに受動的 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の教育力が低下している ・組織活動の維持が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・主任主事を中心とした継続的な校内体制の構築と人材育成 ・基礎的基本的な学習内容の定着 ・相談活動や日常の生徒指導の充実とそれらを基にした教職員と生徒との信頼関係の構築 ・「すぐーる」を活用した適切な情報発信と丁寧な対応 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 弱みを克服し、阻害的要因を回避する解決策は </div>

2 本年度重点目標

- ◎主体的な学びに向けた授業づくり
 - ・家庭学習と放課後学習の徹底と内容の精選による基礎学力の定着
 - ・基礎学力の定着と個のみとりを活かした授業改善
- ◎豊かな心の育成
 - ・生徒指導、教育相談活動の充実
- ◎信頼される学校、業務改善
 - ・CS の推進と生徒に向き合う時間の確保に向けた業務改善